

令和2年度文化財研修講座

文化財課

令和元年度の文化財研修講座を終えて

文化財課では、県内の教職員や県民を対象として、令和元年5月に日本遺産に認定された「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」をテーマに、その日本遺産のストーリーに含まれる鶴丸城や、県内各地の「麓」の魅力についての講演や講義、御楼門の現地見学を実施しました。



文化財研修講座の様子

講演1では、専門は地質学で、鹿児島大学理学部で長年教育研究に携わってこられた鹿児島大学名誉教授の大木公彦氏に、「城山の地形地質と鶴丸城について」と



大木氏の講演の様子

題して、城山は吉野台地の一部であり地盤は海の地層であることや鶴丸城の石材は吉野台地の溶結凝灰岩であることなどの興味深いお話をしていただきました。

- ・ 城山は吉野台地の延長であるということを知り、大変興味深く聞かせていただいた。
- ・ 地質や吉野台地と城山のつながりなど、あまり意識してこなかったことを詳細に知ることができ、視野が広がりました。

【受講者のアンケートから】

講義では、文化スポーツ局文化振興課楼門等建設推進室から「御楼門建設の現況について」というテーマで御楼門建設に向けた動きや工事の内容について、詳細に説明していただき、その進捗状況を知ることができました。



工事中の御楼門



完成した御楼門

- ・ 先人の知恵に驚かされるとともに忠実かつ現代的意義も加味しながら再現していることを知り、完成が楽しみになった。
- ・ 御楼門建設の現況について、積極的なPRが大事だと思った。完成が待ち遠しくなった。

【受講者のアンケートから】

講演2では、県内の歴史や地理を軸に、近代化産業遺産、温泉、鉄道など様々なテーマで自ら案内人として語っておられるNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事の東川隆太郎氏に、「日本遺産に認定された武家屋敷群「麓」について」と題して、麓集落の魅力や鹿児島の外城制度、麓ごとの特徴などについて、わかりやすくお話ししていただきました。



出水麓の様子

- ・ 外城制度と麓の関係が薩摩藩独特のものとわかった。
- ・ 時間を見つけて、できるだけ多くの「麓」に出かけたいと思った。
- ・ 日本遺産に関連する武家屋敷群について、ユーモアたっぷりに楽しく知ることができた。

【受講者のアンケートから】

「文化財研修講座」の開催

令和2年度の「文化財研修講座」の開催については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から検討中です。

※ 上記講座等の詳細については、後日、県ホームページ（ホーム > 教育・文化・交流 > 文化・スポーツ > 文化財 > 文化財研修講座 >）にアップする予定です。

<お問合せ>

鹿児島県教育庁文化財課指定文化財係
TEL:099-286-5355 FAX:099-286-5675
MAIL:siteibun@pref.kagoshima.lg.jp